

1198

1198

第 二 號

執行指定

決裁指定

保存期限

久通宮殿下草紙之同文片

永存

政務次官
回付
決裁前
連帶
課名

執行(決裁)後
回覧
課名

1198

1198

第 二 號

保存期限

政務次官
回付
決裁(前)連帶
課名

決行(決裁)後
回覽
課名

件名
久邇宮殿下御病氣御重態ノ件
老ノ一七七件
起元廳(課)名
大臣官房

大臣		局長		主務課長		主務課員	
次官		高級副官		主務副官		官房御用掛	
政務次官		參與官		書記官		審案 筆記者	
主務局長		主務課長		主務課員			
受領番		提出		受領		了結	
昭和四年一月七日		昭和四年一月七日		昭和四年一月七日		昭和四年五月七日	
連帶		局長		局長		課長	
決行後		決行後		決行後		決行後	
決裁		決裁		決裁		決裁	
回覽		回覽		回覽		回覽	

陸 軍

副官ヨリ各軍、各師團(近衛第一ヲ除ク)
參謀長第三、第十四師團留守隊司令官ハ

電報

久邇宮邦彦王殿下靜岡縣熱海御別邸ニ於
テ御病氣御重態ニ陥ラセラル

昭和四年三月廿七日

同官ヨリ參謀本部、教育總監部庶務課長、
東京警備參謀長、憲兵司令官、近衛第一
師團參謀長、直轄官衙學校長ハ通牒
久邇宮邦彦王殿下熱海御別邸ニ於テ御
病氣御重態ニ陥ラセラル候趣ニ付及通牒候

道筋

獨逸大使館ヲ出テ左へ霞ヶ關ヲ下リ左へ司法
省前通右へ左へ祝田町新道ヲ入り同町四ツ
辻左へ宮城正門へ

所要時間十二分

陸軍

也

追テ各部隊長又ハ御縁故ノ向ハ澁谷御本
郎へ伺候セラレ可然儀ニ付申添候

三二八

昭和四年壹月廿七日

同官ヨリ(元帥、軍事参議官、副官)宮中

席次第一階ノ在將官同相當官へ

拜啓久邇宮邦彦王殿下熱海御別郎ニ於テ

御病氣御重態ニ陥ラセラレ候趣ニ付御通

知申上候

追テ澁谷御本郎へ御伺候相成可然儀ニ付

為念申添候

陸

軍

大官ヨリ第三師團留守隊司令官ノ電報

久通宮殿下熱海御別邸ニ於テ御老寫ニ指ラセラ
レタルニ就テハ御縁故部隊タル歩兵第六聯隊留守
隊若シハ歩兵第三十四聯隊留守隊ヨリ儀仗及警
衛ニ任セシムル為メ尉ノ指揮スル中少尉以下約五
十名ヲ明二十八日午前七時迄ニ御別邸ニ差遣シ
陸軍省出張者ノ指示ヲ受ケテメラレ度

電書号 一〇二七〇午右三時三十分発電 本多忠佐

追記

電書ニテ時刻ハ三ノ日午前七時ニ訂シタ

臣 眞

副官多冬軍、各所至(近衛)參謀長、卯三、卯十四師生留守隊、今夜

、電報

久通官邦彦王殿下今二十七日午後零時二十九分熱海御別邸にて薨死去遊ハサ

一月二十七日午後五時



同官多在外常見大公使彼所

陸軍大臣、印度駐劄武友、

電報

久通官邦彦王殿下今二十七日午後

震時二十九分 熱海御別邸に於て腸潰瘍
兼股膜炎ニシテ薨去アラスル

一月二十七日午後六時三十六分

別府より参府本部、教員總長、御座務長、
東京製備参謀長、近衛、第一所長、参謀
長、實業局長、在京互換友衛署長、
之師、軍事参謀友副官、官中席、
第一階、在京在御時友令在友、
海軍省副官、自條

久通官邦彦王殿下今二十七日午後震時

明治 四

二十九分慶去施ハカル

三一九號

四年壹月廿七日

陸 月

陸軍第三一九號

久通宮殿下薨去ノ件 通牒

昭和四年一月二十七日 陸軍省副官松浦淳六郎

久通宮邦彦王殿下 今二十七日午後零時
二十九分薨去遊ハサレ

官報

號外

昭和四年一月二十七日

日曜日

内閣印刷局

告示

●宮内省告示第三號

元帥陸軍大將大勳位功四級邦彦王殿下本日午後零時二十九分靜岡縣田方郡熱海町久遠宮別邸ニ於テ薨去アラセラル

昭和四年一月二十七日

宮内大臣 一木喜徳郎

●宮内省告示第四號

元帥陸軍大將大勳位功四級邦彦王殿下薨去ニ依リ本日ヨリ二月二日迄七日間宮中喪ニ付其ノ期間宮中ニ參内スル者ハ皇室喪服規程ニ依ル喪服ヲ着用スヘシ

昭和四年一月二十七日

宮内大臣 一木喜徳郎

●宮内省告示第五號

元帥陸軍大將大勳位功四級邦彦王殿下薨去ニ付本日及喪儀ヲ行フ當日廢朝仰出サル

昭和四年一月二十七日

宮内大臣 一木喜徳郎

敘任及辭令

●昭和四年一月二十七日

授勳花章頸飾 大勳位功四級邦彦王

●昭和四年一月二十七日

陸軍大將大勳位功四級邦彦王
元帥府ニ列セラレ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ

宮廷録事

●聖上皇后宮御服喪 元帥陸軍大將大勳位功四級邦彦王殿下薨去ニ付 天皇 皇后兩陛下ハ皇室服喪令ノ規定ニ依リ各定式ノ喪ヲ服セララル

●照宮御服喪 元帥陸軍大將大勳位功四級邦彦王殿下薨去ニ付成子内親王殿下ハ皇室服喪令ノ規定ニ依リ定式ノ喪ヲ服セララル

●邦彦王殿下御容體 邦彦王殿下本月二十一日午後十時頃御便通突然下血アラセラレタルモ其量明確ナラス二十三日午前中一回少量午後一時三十分一回稍多量ノ下血アラセラレ其際暫時御失神遊ハサレタリ

二十四日午前一回午後一回重テ下血アラセララル御出血ノ部位ハ結腸S字狀部邊ニ在ルモノト拜診セリ二十五日午後ニ至リ御體溫三十八度二分ニ昇騰シ御脈一三〇至ヲ算シ御食血ノ御模樣ヲ伺ヒ奉ル二十六日ニ至リ御體溫ハ下降セルモ御食氣進マセラレス御脈搏頻數ニシテ時々不整午後ニ至リ鼓腸ヲ拜スルニ至レリ二十七日午前一時頃嘔吐アラセラレタル後御容體激變シ腹膜炎ノ徵候著明ト爲リ午前三時御體溫三十八度一分御脈搏一三四御呼吸三ニヲ算シ全般ノ御容體益々御險惡ニ赴カセラレ正午頃俄然御危篤ニ陥ラセラレ午後零時二十九分遂ニ薨去遊ハサル

1210

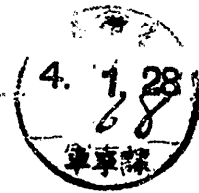
官報號外 昭和四年一月二十七日(日曜日) (昭和二十五年三月三十一日現在) 三種郵便物認可(一)



一七七七

昭和四年一月二十七日

宮内大臣一木喜徳郎



通牒

殿

大勲位邦彦王殿下御病氣ノ處本日午後
零時二十九分静岡岡縣熱海町久通宮
御別邸ニ於テ薨去被遊候間此段及
通知候也

1212

官房文庫

臣 眞

大臣ヨリ本邦事務監督ノ電報

久邇元帥宮殿下御儀去ニ對シ陸軍一般ヲ代表

シ禮ニテ敬吊ノ意ヲ表シ奉ル

右言上ヲ乞フ

八月二十七日午後四時平谷電(奉田)

上 奏 案

故元帥陸軍大將大勲佐功四級邦彦王殿下靈
柩東京ニ御歸還ニ關シ左記ノ通處置致シ候
右謹テ上奏ス

左 記

一、停車場ニ於ケル靈柩直接警衛ノ為第三師團
ヨリ熱海驛ニ第一師團ヨリ東京驛ニ各六尉ノ
指揮スル中少尉以下約五十名ヲ派遣ス
二、東京驛入通室切開靈柩警衛ノ為中少尉ノ
指揮スル近衛騎兵下士以下二十二名ヲシテ儀仗
ニ任セシム

昭和四年一月三日

東京警備司令官ノ要案 (清善)

故元帥陸軍大将大勲位功四級邦彦王殿下遷柩
東京ニ御歸還ノ為ノ儀式ニ關シテ、通心得シ

左記

一、東京驛ニ於ケル遷柩直接御警衛ノ為第一師
團ヨリ大尉ノ指揮スル中少尉以下約五十名ヲ派
遣スヘシ

二、東京驛ノ通官御間遷柩御警衛ノ為中少
尉ノ指揮スル下士以下二十二名ヲシテ儀式ニ
任ゼシムヘシ

三、將校ノ指揮スル下士以下二十四名ヲシテ東京

驛構以ニ於ケル遷柩奉仕ニ任セシムヘシ

四遷柩東京驛御著ノ際立京達軍現役將校

同相留官ヲシテ該停車場ニ於テ奉迎セシム

ニシ

昭和四年四月廿七日

憲兵司令官ノ建案

故元帥陸軍大將大勲位功四級邦考王殿下遷

柩東京ニ御歸還ノ為横濱驛御通過ノ際横

濱憲兵大隊將校ヲシテ該驛ニ奉迎送セシムヘシ

三三三

昭和四年四月廿七日

送

送



次官より東京警備司令官へ書き司令官へ通牒(陸軍)

故邦考王遷柩廿二日熱海御別邸より東京

御本邸へ奉遷せらるるに付承知せうし度

追う御發着期左記ノ通ニ付申添う

左記 陸軍第 三三二號 昭和四年七月廿八日

午後四時四十分 熱海御別邸御出所

同 五時 熱海驛御發

同 七時二十分 東京驛御着

軍事



陸軍第七七七號

昭和四年一月二十七日

宮内大臣一木喜徳郎 殿



故邦彦王靈柩明二十八日熱海御別邸ヨリ東
京御本邸へ奉遷セラレ候間此段及通知
儀也

追テ御装著割左記ノ通ニ有之候

記

午後四時四十分

熱海御別邸御出門

同 五時

熱海驛御装

同 七時三十分

東京驛御著

1223



陸軍省 第七七七號

第二六號

陸軍省
4.1.28
午前9時
事務主任

昭和四年一月二十七日

宮内大臣 木喜徳郎

陸軍大臣 白川義則 殿

通牒

故邦彦王靈柩来二十八日午後七時二十分
東京駅御着付儀仗トシテ同駅官邸同
特、將校ノ率ナル近衛騎兵一小隊ヲ附セ
ラル、操御沙汰相成候條時刻之前同駅へ
差出相成度

4.1.28
68
陸軍省

1224

					3			
--	--	--	--	--	---	--	--	--

1224

遠

東

陸軍一七七三

陸軍省
1.1.53
午前0時

第二五號

電報譯 一月廿七日 午前午後二時 分著

陸軍次官宛 發信者 第三師團司令部
久松宮殿下、儀仗及警衛之任を部隊ハ
第六留守隊より上田久太郎大尉ノ指揮スル
中少尉以下五十二(少尉二下士六)率一四四
ニシテ本月廿七日午後九時五十分名古屋駅發
車別部ニ差遣又同隊ハ廿八日午前六時
五十五分越海駅着ノ事也

4. 1.28
68
事務

陸軍

1226

陸一七七

電報譯

一月廿八日

午前八時

午後

八時

分分

第二號

副官宛 發信者 寺倉

歩六部隊豫定、如く当地着ス

陸軍 4.1.28 午前

4. 1. 28 / 68

陸軍

至急電 第七七五

東警衛第三隊

故邦彦王殿下薨去ニ付平問ノ爲伺候

並靈柩奉迎ニ關スル件 通牒

昭和四年一月二十七日 東京警備參謀長岸佐美興屋

陸軍省副官 松浦淳太郎殿

邦彦王殿下本二十七日午後零時二十九分薨去アラセラル

靈柩ハ明二十八日午後七時二十分東京驛御着車御歸

邸アラセラルニ依リ平問並靈柩奉迎ニ關シ左記ノ通

定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

一將校同相當官ハ適宜ノ時機ニ久適宮御本邸ニ伺候スル下

1227

陸軍省
1.23
午前四時
官房往復

陸軍

二 靈柩東京驛御着車ニ際シ將校、同相當官ハ午後七時迄ニ同驛ニ參集シ奉迎スルコト（橋内參集者ハ勅任官以上ニ定メラルル筈）

三 前ニ項ノ場合共服裝ハ通常禮装トシ喪章ヲ齎セサルコト

1229

陸一七七六

電報譯

一月廿七

日 4. 1. 23

午前 9 時

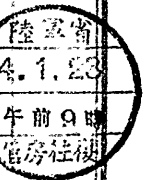
午後 9 時

後

九時

三十分

分著



第一九號

高級副官宛 發信者 國分

一 熟

一 植口旅館ニ事務所ヲ置ク

二 別邸取向自動車ヲ買入

三 御別邸ト取ニ於テ靈柩捧持方陸軍ニ依頼

セラル



陸軍

陸軍省 電報譯 一月廿八日 午前午後 五時三十分 發著

陸軍省副官宛

發信者

朝鮮軍參謀長

鄭彥王殿下へ

軍司令官ヨリ

御供物ノ儀

可然頼△

第三一號



陸軍

陸軍省 一七七七 陸軍八

第一四號

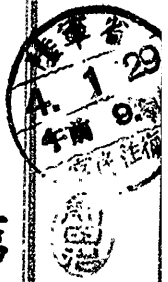
電報譯

一月三日 午前午後 三時四分 著

陸軍省副官宛 發信者 乃十一師參謀長

及通官家ニ對シ仰事長トシテ御供等ニ付キ

如何ニ取計ヒタル可キヤ



陸軍

1232

陸軍省
電報譯

第九
第
號

電報譯

一月廿九日

午前午後十一時五分著

次官

宛

發信者

第六留守隊長 追孫中佐

儀仗兵上田大尉以下二十九日午前七時重傷

歸隊不將卒一同光榮に浴シ感激ス

陸軍

陸軍省
4.1.29
軍事課

1233

七七七

陸軍省
午後四時

1.30
6

第二八號

電報譯

一月廿九日午前午後

三時二五分
四時二分著

高坂副官宛

發信者第三師團為守彦潔

久通宮殿下 森儀 當日ニ於ケル軍勢、

行事ニ関シ何等カノ指示アルヤ

(第三師團内地部隊ハ五月三日諸兵隊

令演習實施ノ予定)

返云フ

指示及テ事取ナシ

昭和四年 五月廿日

陸軍

1234

閣

決行指定

決裁指定

保存期限

大臣		件名		受領番	
局長 主務		放通元帥官御前、御成供ノ件		壹第 一七七 御	
次官		起元應(課)名		有	
政務次官		參與官			
高級副官		書記官			
主務副官		審案			
官房御用掛		筆記者			
主務課長					
主務課員					
納見					
局長		連帶			
局長		局長			
課長		課長			
課長		課長			
了結		受領		提出	
昭和 年 月 日		昭和 年 月 日		昭和 年 月 日	
昭和 年 月 日		昭和 年 月 日		昭和 四年 一月 三十 日	
(裁決)行決		覽回後		連帶	
局長		局長		局長	
課長		課長		課長	
課長		課長		課長	

政務次官 回付 決裁前後連帶 參與官 回付

決行(決裁)後 同覽課名

在 庫

副友多朝新、台修、園東、支那駐

正軍、各所至

(近衛、即一師等ノ修等)

參謀長、電報

故久通元帥、官御前ニ奉司合及(師

團長)ヨリ神ヲ供フル下ニ取計ニ置

ケリ

昭和四年壹月廿日午後五時五分

澤吉 (一)由ハ各所至行キニ既ニ但シ即三師至及芳

三師團長等(一)ハ由リ、師至長及芳六階樓

間ヲ各ニ又即十師至(一)ハ師至長及芳三八

階樓間ヲ各ニ作ル

故久遠堂殿下御靈子の御供物一件

一月三十日
年廿四日四十八

一、教有信監部、参謀本部へ、

大臣、信長、信隆、各自御辨(三十尔)、盛策(二十尔)ヲ供(履)

御長支十ハ陸軍省ニテ取計ヒ代金ハ後ニテ請求ス

畧存十シ

二、元帥軍事参議官副官へ、警備司令ヲ副官へ、

元帥軍事参議官、各自御辨(拾五尔)ヲ供ハラルニスト、致

度、御長支十ハ陸軍省ニテ取計ヒ代金ハ後ニテ請求ス

畧存十シ

三、近衛、第一師為副官へ、

師為長ヲ御辨(拾三尔)ヲ供ハラルニスト、致度

近衛師為ハ別ニ近衛師為博後一師ヲ御辨ヲ供フルニスト、致度、
第一師為畧存十シ、近衛師為ハ師為長ノ外ニ近衛師為トシテ師為長並ノモヲ供フルニスト、
三條

四、参謀本部、信監部、警備司、近衛、第一師為へ、

陸軍

陸軍省書寫一同ト、
柳ヲ御供ヘセリ。
承紙

陸
軍



電報譯

一月三十一日午前午後

二時三十分著

第 一 號

副官宛 發信者 第十六師團參謀長

故久邇元帥宮殿下へ清供へノ件清配慮ヲ

謝ス

陸軍

1239

陸軍省
第七七二

陸軍省
1.31
往秘

電報譯

一月三十日午前八時五分發
午後九時五分著

第一六號

陸軍省副官宛
發信者第九師團參謀長
師團長神御供ノ件
宣敷御取
計ヲ乞フ

陸軍

上奏案

臣 旨

來二月三日故元帥陸軍大將入勳位功

四級久通席邦彦王殿下御葬儀諸

日弔唁二十一發ヲ發射其且ツ在京陸

軍軍隊ノ約率部ヲシテ靈柩沿道ニ堵

列送葬セシマ候

通過

右謹之奏云

倭兵差遣、御母迄了るん候

東京参之備司人之席へ連業

来ル二月三日故元帥信重大将大勲位功四級
又通彦和彦王殿下御奉儀清日倭仗及
堵列部隊之差遣其他之案之左記ノ通取計
スルニ

左記

昭和四年貳月五日

一倭仗兵トシテ陸軍より少尉ノ指揮スル步兵一
聯隊少佐ノ指揮スル近衛騎兵一中隊及
軍樂隊一隊ヲ併セラル
依テ步兵聯隊ノ編制ニ貴官ニ於テ適宜決

臣 眞

定シ努メテ救殿下ニ御縁故深キ建制部隊ヲ
 以テ之ニ充テ軍樂隊ト共ニ華祭場ニ於テ服
 務セシムヘク又騎兵ハ指揮官以下八十四騎トシ
 鹵簿内ニ在リテ服務セシムルコト
 軍樂隊ノ服務ニ關シテハ貴官之ヲ區處スル
 ノ同隊者モモ連絡アル者
 二 海軍儀仗隊ノ儀仗服務ニ關シテハ陸軍儀仗
 隊指揮官ヲミテ區處セシムルコト
 本件ニ就テ華儀掛陸海軍委員ニ於テ協
 議南
 三 在京陸軍軍隊ノ約事部ヲ多靈桓通島治道

陸 四

二堵別送葬セシム

四 弔銃發射二十發トス

五 儀仗及堵別部隊ノ敬禮銃平砲發射等ニ關

シテ陸軍葬喪令ニ依リ尚書令遵敬及發

射ノ時期其他儀式施行ノ細部ニ關シテ直

接葬儀掛ニ連絡協議スベシ

副官ヲ教者檢査部中隊長ニ通達ス

案ハ二月三日故邦考査殿下御葬儀當日儀仗トシ

テ軍樂隊一隊ヲモ附セラルル者御沙汰有判

シニ伴同隊ヲシテ儀仗服裝ニ關シ皇軍葬儀備司

令官ノ通處ヲ受ケシトシテ度依命ノ通候方

三九五

昭和四年貳月壹日

陸 軍

卷一七七
文書

宮内大臣府
文書課
宣發第 四七 號

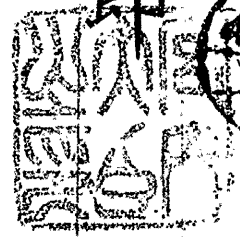
昭和四年一月三十一日

宮内大臣 一木喜徳郎

陸軍大臣 白川義則 殿

邦彦王殿下薨去ニ付來二月三日葬儀ノ
節儀仗トシテ小佐ノ指揮スル騎兵一中隊少
將ノ指揮スル歩兵一聯隊及軍樂隊一隊ヲ
附セラレ候旨御沙汰候條同官邸へ御差出
相成度候

1.31
76



1247

宮内省

追テ午前九時靈車發引同十時三十分
 豊島ヶ岡ニ於テ歛葬ノ儀行ハセラレ候

1249

閣

第...七七號

官房第三六七號

昭和四年一月三十一日

海軍大臣 岡田 啓

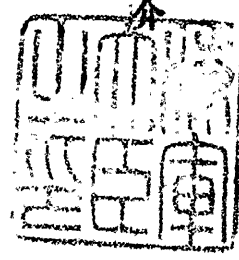
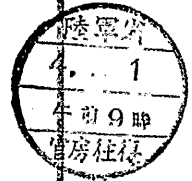
陸軍大臣 白川 義則 殿

故元帥陸軍大將大勳位功四級久邇宮邦彥王殿下

御喪儀ニ海軍儀仗隊參加ノ件通牒

本件ニ付別紙ノ趣本大臣ヨリ上奏裁可ヲ經タリ

(別紙一葉添)



終

故元帥陸軍大將大勳位功四級久邇宮邦彦王殿下

御喪儀ニ海軍儀仗隊參加ノ件

故元帥陸軍大將大勳位功四級久邇宮邦彦王殿下ノ御喪儀ニ儀仗トシテ
海軍銃隊ニケ大隊、軍樂隊一隊ヲ參加セシメラル

海軍

谷市より香榎山田事役市田谷葉(馬道)

一月三十日附馬屋二原に赴郡考王殿下御喪儀

當日役員差出、仲具存無之左記、者ヲ可

差出、外、承知セシ度

左記

四二四

昭和四年貳月貳日

陸軍少兵少佐 土橋勇造

日 輔官少佐 落合忠吉

日 砲兵少佐 鈴木敏行

日 三國直福

日 憲兵少佐 山形信廣

日 騎兵中佐 稲葉四郎

日	步兵少佐	安達二十三
日	砲兵大尉	莊司博
日	砲兵大尉	芳仲和太郎
日	少兵大尉	國分新七郎
日		中村次喜彦
日		山崎茂
日		新井匡夫
日	三等軍醫	神林浩
日	陸軍	新井操
日		吉田正松

外ニ下士一名、上等兵二名、兵卒三名

陸軍



軍事

1254

陸軍省
第一七七七
第五

陸軍省
4.2.1
午前9時
官房陸軍

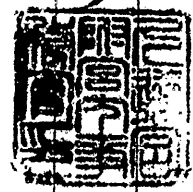
陸軍省
4.2.1
68
軍事課

昭和四年一月三十日

久通宮附官内事務官山田益彦
陸軍次官阿部信行殿

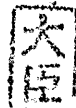
照會

故邦彦王殿下御喪儀當日役負
トシテ將校十三名及判任官以下若
干名御差出相成度
追テ人名御通知相成度



官
日
會

1255



陸軍省第一七七號第五

三月一日

陸軍省第一七七號

故邦彦王殿下斂葬當日儀式ニ關スル件報告

昭和四年貳月 喜 東京警備司令官 岸本鹿太郎

陸軍大臣 白川義則殿

首題ニ關シ別冊ノ通命令セルニ付報告ス

軍事部

陸軍

故邦彦王殿下斂葬當日儀式ニ關スル命令

一 來二月三日故元帥陸軍大將大勲位功四級久邇宮

邦彦王殿下ノ斂葬ノ儀行ハセラル

靈車ハ當日午前九時久邇宮即御發引同九時四

七分豊島ヶ岡葬場ニ御着ノ筈

ニ近衛師團ヨリ左ノ如ク儀仗兵ヲ差遣スヘシ

イ 少將ノ指揮スル歩兵一聯隊(軍旗ヲ樹ツ)ヲ當日

午前九時十分迄ニ豊島ヶ岡葬場ニ差遣シ儀

仗ニ服セシム

該指揮官ハ陸軍戸山學校重樂隊一隊及鹵簿御列幕後ノ儀仗騎兵ヲ併セ指揮シ且海軍儀仗隊ノ行動ヲ區處スルモノトス



陸軍 戸山學校軍樂隊及海軍儀仗隊ハ當日
午前九時二十分迄ニ葬井場ニ至ル等

口 少佐ノ指揮スル近衛騎兵約一中隊ヲ當日午前
八時三十分迄ニ久通宮邸ニ差遣シ靈車御發
引ニ際シ由篤ニ入り儀仗ニ服セシム

三 第一師團ヨリ野砲兵一中隊ヲ當日午前九時三十分
迄ニ豊島ヶ岡東北方旧東京兵器支廠跡ニ差遣
シ靈車葬井場御着ニ際シ平砲ヲ發射セシムヘシ
發射速度ハ一分一發、發射彈數ハ二十一發トス

四 在京各軍隊(近衛歩兵一旅團(一聯隊欠)、近衛騎兵
約一中隊、野砲兵一中隊欠)ハ各半部(司令部、本部ヲ
會シ歩騎兵聯隊ハ軍旗ヲ樹ツ)ヲ以テ當日午前八時

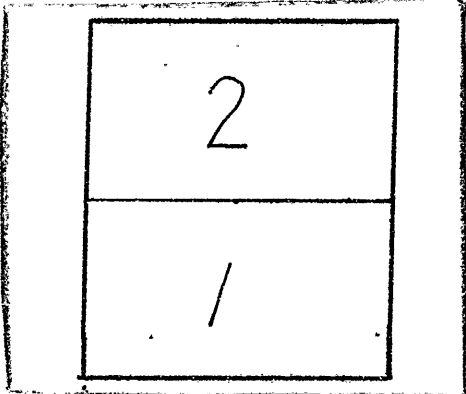

五十分送ニ別紙要圖ノ如ク堵列シ近衛師團長
 長谷川中將ノ指揮ニ依リ奉送スヘシ
 奉送ニ關スル行動ハ陸軍葬喪令ニ準ス
 奉送終ラハ逐次退散スヘシ

五予ハ當日午前九時二十分豊島々岡葬場ニ在リ

昭和四年二月一日

東京警備司令官 岸本鹿太郎

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>6年10月17日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

故邦彦王殿下斂葬當日儀式ニ關スル命令

一 來二月三日故元帥陸軍大將大勲位功四級久邇宮

邦彦王殿下ノ斂葬ノ儀行ハセラル

靈車ハ當日午前九時久邇宮即御發引同九時四

七分豊島ヶ岡葬場ニ御着ノ旨

ニ近衛師團ヨリ左ノ如ク儀仗兵ヲ差遣スヘシ

一 少將ノ指揮スル歩兵一聯隊(軍旗ヲ樹ツ)ヲ當日

午前九時三十分迄ニ豊島ヶ岡葬場ニ差遣シ儀

仗ニ服セシム

該指揮官ハ陸軍戸山學校重樂隊一隊及下鹵
簿御列幕後ノ儀仗騎兵ヲ併セ指揮シ且海
軍儀仗隊ノ行動ヲ區處スルモソトス

陸軍戸山學校軍樂隊及海軍儀仗隊ハ當日
午前九時二十分迄ニ葬場ニ至ル筈

口少佐ノ指揮スル近衛騎兵約一中隊ヲ當日午前
八時三十分迄ニ久通宮邸ニ差遣シ靈車御發
引ニ際シ鹵簿ニ入り儀仗ニ服セシム

三第一師團ヨリ野砲兵一中隊ヲ當日午前九時三十分
迄ニ豊島ヶ岡東北方旧東京兵器支廠跡ニ差遣
シ靈車葬場御着ニ際シ平砲ヲ發射セシムヘシ
發射速度ハ一分一發、發射彈數ハ二十一發トス


四在京各軍隊（近衛歩兵一旅團（一聯隊欠）、近衛騎兵
約一中隊、野砲兵一中隊欠）ハ各半部（司令部本部ヲ
會ニ歩騎兵聯隊ハ軍旗ヲ樹ツ）ヲ以テ當日午前八時

五十分迄ニ別紙要圖ノ如ク堵列シ近衛師團長
 長谷川中將ノ指揮ニ依リ奉送スヘシ
 奉送ニ關スル行動ハ陸軍葬喪令ニ準ス
 奉送終ラハ逐次退散スヘシ
 五予ハ當日午前九時ニ十分豊島ヶ岡葬場ニ在リ

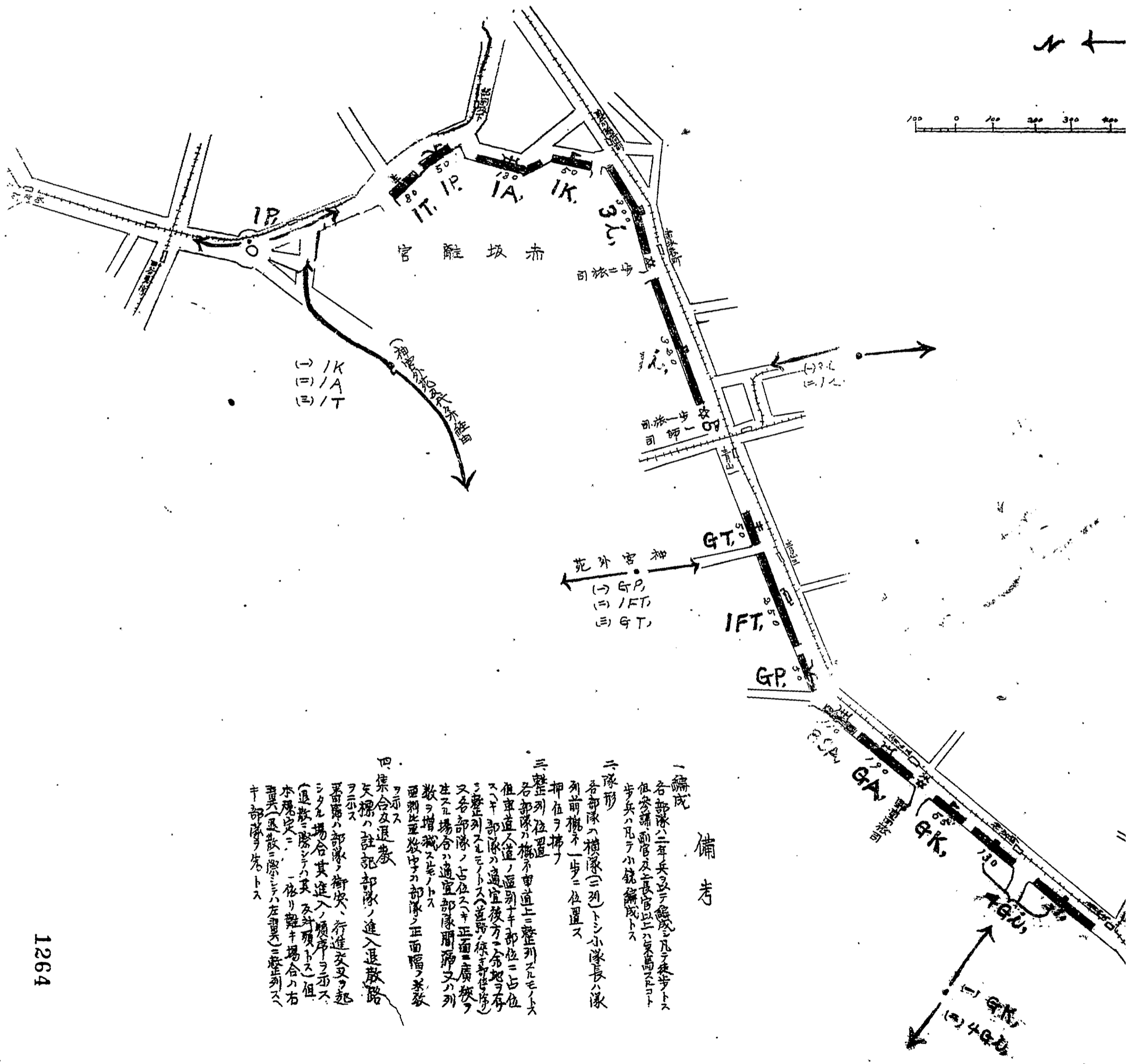
昭和四年二月一日

東京警備司令官 岸本鹿太郎

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="628 412 1091 801"><tr><td data-bbox="708 430 1018 609">2</td></tr><tr><td data-bbox="708 609 1018 792">1</td></tr></table>	2	1
2			
1			
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため		
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>6年 10月 17日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>			

圖要置位列 堵節，儀表下殿



備考

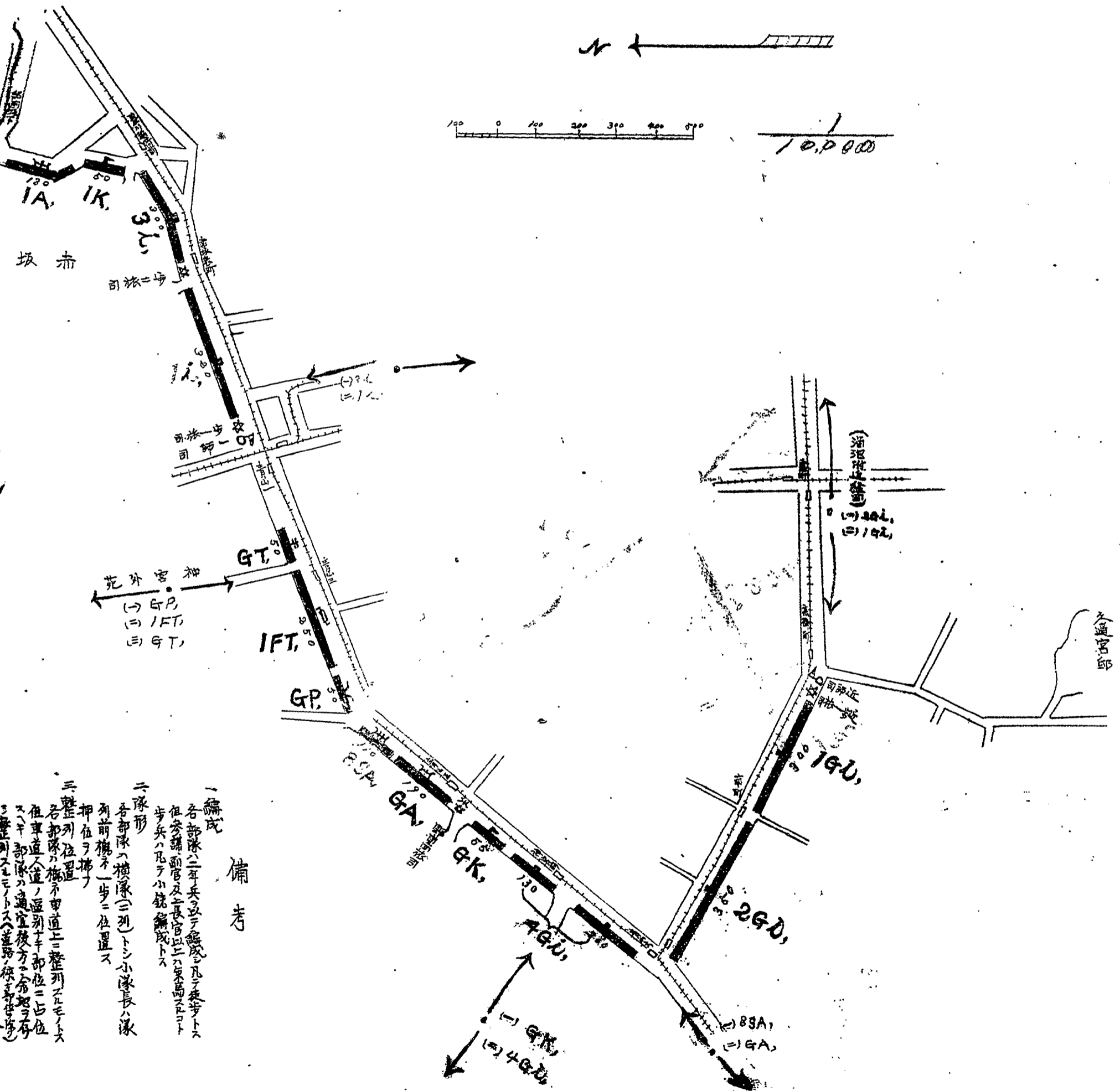
一編成
各部隊二年兵以テ編成ニ凡テ後歩トス
但テ歩隊前官及上長官以上ハ兵馬馬トコト
歩兵ハ凡テ小銃編成トス

二隊形
各部隊ノ横隊(三列)トシ小隊長ハ隊
列前橋ヲ一歩ニ位置ス
押位ヲ拂フ

三整列位置
各部隊ハ橋ノ直道ニ整列スルモイ大
直道直道ノ道ノ道別キキ部隊ニ占位
ス(キ)部隊ノ適宜後方ニ占位ヲ存
シ整列スルモイ大(直道)隊ヲ存
又各部隊ノ占位ス(キ)正面ニ廣敷
生ズル場合ハ適宜部隊間隔又ハ列
散ヲ増減スルモイ大トス
距離比直道中キ部隊ノ正面幅ヲ表
ヲ示ス

四集合及退散
矢標ハ註記部隊ノ進入退散路
ヲ示ス
某部隊ハ部隊ノ衝突、行進交叉又チ起
シタル場合其進入ノ順序ヲ示ス
(退散)隊シテハ其ノ及チ順トス(但
本隊定ニ一依リ難キ場合ハ右
ヨリ(退散)隊シテハ左ヨリ)ニ整列ス
キ部隊ヲ先トス

故邦彦王殿下儀、節堵、列位位置要圖



陸軍省 第七七號

六四號

故邦彦王殿下葬儀掛助手差出ノ件回答

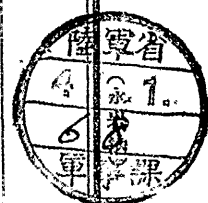
昭和四年一月一日

近衛師團參謀長青木政重

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

一月二十九日附陸普第三七一號ニヨル首題ノ件別

紙人名ノ通差出スヘキニ付回答ス



陸軍

別紙

故邦彦王殿下華嚴掛助手人名表

電信第一聯隊

下士 陸軍工兵伍長 穂積寛爾

兵卒 陸軍工兵上等兵 坪井由

同 同 宮本三郎

同 同 一等卒 安藤常次

同 同 郷内三郎

同 同 猪股勝榮

以下 六名

陸軍

(永岩繪)

老學一七七三

憲法第六五號

故邦彦王殿下葬儀掛差出ノ件回答

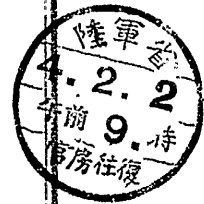
昭和四年二月二日 憲兵司令官 峯 幸松

陸軍省副官 松浦淳六郎 殿

二月一日陸普第四。五號ヲ以テ照會セラレタル左記、者差出、件異存無之回答ス

左記

憲兵少佐 山形信廣



2.8 陸軍省

陸軍

卷一七七七 第八

一三

故邦彦王殿下葬儀概差出ノ件回答

昭和四年 貳月 貳日

東京警備參謀長 宇佐美興屋

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

標題ノ件ニ関シ陸普第四〇五號照會ノ趣
了承ス

2.2
68
陸軍省

臺一七七號五九

東警言衛第一〇號

故邦彦王殿下葬場、御儀、

節參拜ニ關スル件通牒

昭和四年二月二日

東京警備參謀長 中佐美興屋

陸軍省列女 松浦淳子郎殿

來二月三日故元帥陸軍大將大勳位功四級久邇宮邦彦王殿下葬場

ノ御儀被爲行ニ付左京陸軍高等官、參拜ニ關シ左記ノ通心得

ラレ度通牒ス

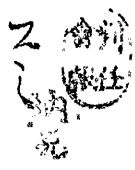
左記

一宮中席次大勳位以下勳一等級以上者、故王ノ親族タル華族、宮中

席次ヲ有スル特別縁故者ハ午前九時十分迄ニ葬場ニ先着シ正

整 畢

1270



門前ニ於テ資格ヲ表示セル名刺ヲ受附係ニ交附シ指定ノ休所ニ参入スルコト

二前記以外ノ者ハ午前土時ヨリ十二時迄ニ葬場ニ参着シ正門前ニ於テ資格ヲ表示セル名刺ヲ受附係ニ交附シ拜禮退下スルコト

但参着ニ方リ儀仗兵ノ敬禮中(午前土時頃ノ豫定)ナル場合ハ軍隊ノ正面ヲ通過セサルコト

三服装ハ武官ハ正装、文官ハ大禮服ニシテ左腕ニ黒紗ヲ纏フコト
雨天ノ竹即ハ雨具ヲ使用スルモ差支ナシ

四車馬アル向ハ正門外ニ於テ下車シ車馬券ヲ受クルコト

陸軍省
第七七七
其ニ

陸軍省
4. 2. 2
午前9時
官房往復

近副壹第六八號

故邦彦王殿下葬儀掛差出ノ件回答

昭和四年二月二日 近衛師團參謀長 青木政喜

陸軍省副官 松浦淳六郎 殿

二月一日附陸普第四〇五號ヲ以テ照會セラレタル首題ノ件異存無之ニ付回答ス

陸軍省
陸軍省
陸軍省

4. 2. 2
68
陸軍省

陸軍

臺一七九

一九

故邦考王殿下喪儀掛差出件用

昭和四年四月三日

陸軍省醫務局長合田平

陸軍省副官松浦淳三郎殿

二月一日陸軍省第四五部ヲ以テ照會有題ノ件一異存サレ

陸軍

1274

皇紀一七七號其二三

三月四日

參謀 庶務課 庶務課長 藤塚義男

故邦彦王殿下葬儀掛差出ノ件回答

昭和四年二月二日 參謀本部庶務課長藤塚義男

陸軍省副官松浦淳六郎殿

二月一日附陸普身四〇五號 照會ノ係ル旨題ノ

件 妥存ナシ

24
19

陸軍

副官、軍務局長、陸軍省副官、軍

事務局長、陸軍省局長、憲兵司令官、

参謀本部参謀長、教育総監部、参謀

長、東京警備参謀長、及近衛師、

参謀長、照会案

故神考王殿下葬儀林トシテ左記ノ者ヲ

昨務セシメテ度照会云

左記

四〇五

昭和四年貳月壹日

少兵少佐 土橋勇造

頼重兵少佐 落合忠吉

砲兵大尉 芳仲和太郎

軍務局長、

卷七七

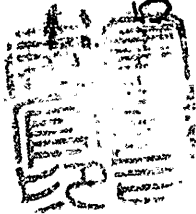
憲警第一三號

御警衛計畫ニ関スル件報告

昭和四年三月廿日

憲兵司令官 肇

幸



二月三日豊島ノ岡御陵ニ於テ故久通宮邦彦
王殿下御葬儀被為行ニ付御警衛取締
計畫左記ノ通報告ス

左記

一 服務人員並編成表

別紙ノ通

陸軍

二月三日警衛服務人員表

東京憲兵隊

考 備 馬込差出ニ関シテ各區隊長ノ指示ヲ受クルモノトス	合 計	久邇宮邸外圍 四谷仲町停留所間 四谷仲町停留所 豊島岡御陵正門 豊島岡御陵外圍	八田少佐	田村特務曹長 寺田特務曹長	八	本部 麹町 赤坂 四谷 本所 上野 澁谷 板橋 計	
		阿部中尉	伊藤特務曹長 伊澤特務曹長	四五	三	二	一
		小山少佐	伊藤特務曹長	二	三	一	一
		伊藤特務曹長	伊藤特務曹長	五	三	一	一
		伊澤特務曹長	伊澤特務曹長	九	一	一	一
		伊藤特務曹長	伊藤特務曹長	八	一	一	一
		伊澤特務曹長	伊澤特務曹長	九	一	一	一
		伊藤特務曹長	伊藤特務曹長	八	一	一	一
		伊澤特務曹長	伊澤特務曹長	九	一	一	一
		伊藤特務曹長	伊藤特務曹長	八	一	一	一

陸軍省 一七七七 號三三四

近副 六九號

故邦彦王殿下靈柩儀仗騎兵並捧持者件通

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通牒ス

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

陸軍

(永岩納)

故久邇宮殿下置樞儀仗騎兵人名表

陸軍騎兵中尉	都	渡	正	藏	
同	曹長	松	本	敬	
同	軍曹	萩	原	新二	
同		朝	倉	定	
同	伍長	加	藤	七	造
同		猪	狩	金	一郎
同	上等兵	大	森	龍	
同		山	内	間	左男
同		上	野	治	三郎
同		官	崎	浦	治

同	同
喇叭手	推
笹	名清五郎
森	
孫	
藏	

以上三名

一 陸 軍

久邇官邦彦王殿下靈柩禱持者

指揮官

近歩三

歩兵大尉

永澤三郎

近歩一

歩兵車曹

大川戸辰藏

〃

〃

平澤寅治

〃

〃

佐藤繁

近歩二

〃

飯田太郎

〃

〃

大塚八百吉

〃

〃

川井五郎

近歩三

〃

平出一長

〃

〃

藤澤芳五郎

〃

〃

關東忠吉

陸軍

軍

(永岩納)

1287

本人員ノホームヨリ御車寄マテ吳床ノ搬送ニ任シ
且ツ後片付ニ任シタルモノトス



臣 眞

副友多彦藤本御、教言治等御唐船

謀長、近衛、等御平彦藤長、通條

二首題ノ御別我時國刻ノ通奉仕元コト

被定シニ付通條ス

昭和四年三月廿九日

追テ御一回ニ奉仕元人員ハ將友佐友左相

高友ヲ直シ御名ニ奉仕元人員ハ將友左相

御名ニ奉仕元人員ハ將友左相

御名ニ奉仕元人員ハ將友左相

付家

服世衣通常禮世衣左腕、裏衣、付久

水ノ下ノ書

(一) 佐藤 隆之

副友了省由各長、河津番長、車

手取備長、藤原長、在系

藤原友術、藤原長、自條

首題ノ件ニ際シ、別紙ノ通定メラレテ付

陸軍省奉仕ノ日時ニ於テ御希望ノ

向テ多ク其ノ日時、友及名ヲ至急自條

お取交

近テ毎回ノ奉仕人及ハ將友依及今其友

ヲ自條名付テ少クモ其友一名ヲ

奉仕人及ハ其友一名ヲ自條

二日ノ日時ノ繰替、又ハ奉仕ノ得ル

三回九
昭和四年三月廿九日

1291

可相之下
あせきんニ付成念しあひ
反

付身 服禁 匣 帝 禮 禁 こと 腕 と 表 奉 了 附 了

十一朝 御通夜割
三十日 前夜半夜
右九〇〇一〇〇〇

陸軍砲兵中佐	陸軍工兵主計正	陸軍二等獸醫正	陸軍歩兵大佐	同 少將	陸軍中將	同	陸軍大將
前田	根岸	田崎	横卷	西井	松木	田中	森田
沼	荒爾	武八郎	茂雄	義朗	直亮	國重	守成

注意

- 一、御通夜奉仕者、時刻前三十分参集ノコト
- 二、服装、通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト

一月三十日

第

一 班
自午後十一時
至午前五時

第 二 班

陸軍少將	陸軍砲兵大佐	陸軍歩兵大佐	同
藤田	青木	川原	鷹津
次	政	原	津
助	喜	侃	平

陸軍少將男爵	陸軍砲兵大佐	陸軍工兵大佐
淺田	時乘	松井
良		
逸	壽	命

第三班

陸軍工兵大佐 秋月胤介

陸軍軍醫監

倉林香三

陸軍一等主計正

白井八百藏

陸軍輜重兵大佐

山田褒雄

陸軍砲兵大佐

西村迪雄

一月三十一日
自午後七時
至午後十一時
故久邇宮殿下御通夜割

陸軍大將
陸軍中將
陸軍少將
陸軍聯兵大佐
陸軍步兵大佐
同
陸軍歩兵中佐
同

送付
福田雅太郎
荒木貞夫
廣瀬壽助
橋本虎之助
岡村寧次
篠塚義男
山脇正隆
松岡銈治

注意

- 一、御通夜奉仕者ハ時刻前三十分参集ノコト。
- 二、服装ハ通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト。

故久邇宮殿下御通夜割

一月三十一日
自午後十一時
至翌朝午前五時

陸軍中將

山内静夫

陸軍少將

久世為次郎

同

大村齊

同

二宮治重

同

林桂

陸軍軍醫監

小山憲佐

陸軍歩兵大佐

藤岡萬藏

陸軍工兵大佐

矢野正記

注意

- 一、御通夜奉仕者ハ時刻前三十分参集ノコト
- 二、服装ハ通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト

陸軍砲兵中佐
 陸軍歩兵中佐
 陸軍騎兵大佐
 陸軍憲兵少佐

菊池門也
 小泉恭次
 酒井周吉
 橋本秀馬

8

故久邇宮殿下御通夜割

二月一日
自午七時
至十一時

陸軍大將

陸軍中將

同

同

同

同

陸軍歩兵大佐

同

鈴木孝雄

岸本鹿太郎

緒方勝一

阿部信行

川島義一

西村義一

中村濱作

松浦淳太郎

注意

- 一、御通夜奉仕者、時刻前三十分参集ノコト
- 二、服装、通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト

二月一日午後十一時ヨリ翌朝午前五時迄
故久邇宮殿下御通夜割

同	陸軍歩兵中佐	同	同	陸軍歩兵大佐	陸軍砲兵大佐	陸軍軍醫監	陸軍主計監	陸軍少將
杉山	奥保	谷實	坪善	永鉄	西郷	野崎	加藤	古莊
得	保	實	善	鉄	豊	藤	鈴	幹
一	夫	夫	明	山	彦	郎	三	郎

注意

- 一、御通夜奉仕者、時刻前三十分参集ノコト
- 二、服装、通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト

同	陸軍歩兵少佐	陸軍砲兵中佐	陸軍砲兵中佐
北野憲造	小佐治量平	米田平三郎	米田平三郎

二月二日 自午後七時
至午後十一時

第一班

陸軍中將

長谷川直敏

陸軍少將子爵

山口十八

陸軍等勲醫正

小林敬一

陸軍歩兵大佐

大濱石太郎

第二班

陸軍少將

石川連平

陸軍騎兵大佐

原常成

陸軍砲兵大佐 陸軍砲兵大佐
陸軍歩兵大佐 平那
松倉
英知
雄満

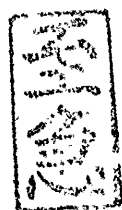
二月二日午後十一時ヨリ二月三日午前五時迄
故久邇宮殿下御通夜割

陸軍砲兵中佐	同	陸軍歩兵中佐	同	陸軍歩兵大佐	陸軍少將	同	陸軍中將
大島浩	沼田徳重	志岐豊	末松茂治	南田政之助	横須賀辰藏	坂部十才徳一	三好

注意

一、御通夜奉仕者、時刻前三十分参集ノコト
 二、服装、通常禮装ニシテ腕ニ喪章ヲ附スコト

陸軍工兵中佐	安達
陸軍二等主計正	美藤
陸軍歩兵中佐	村上
陸軍工兵少佐	中村
	誠一
	嘉市
	正茂
	克巳



1309

昭
和
四
年
一
月
卅
一
日
參
謀
本
部
庶
務
課
長
篠
塚
義
男

故久邇宮殿下御通夜奉仕人名變更ノ件通牒

昭和四年一月卅一日 參謀本部庶務課長 篠塚 義

陸軍省副官 松浦 淳六郎 殿

首題ノ件 左記ノ通牒ス

左記

前半夜橋本騎兵大佐（家族傳染病ノ爲）ヲ

參謀本部々員 歩兵中佐 田中 靜 壹 二

後半夜穴戸騎兵少佐（本人病氣ノ爲）ヲ

元帥副官 他兵大尉 橋本 秀 信 二

兼參謀本部々員

陸軍

至急

1310

參謀本部

庶日第 五 號ノ四

故大浦 宣殿下御通夜奉仕ノ名ノ件 回答

昭和四年一月三日

參謀本部庶務課長 篠塚 義男

陸軍省副官 松浦 淳六郎 殿



本月二十九日附陸普房三四九號 通牒 據ル旨

題ノ件 別紙ノ通 回答ス

陸軍

故久瀨宮殿下御通夜奉仕人名 参謀本部

三十一日 前半夜 (自后七時至后十一時)

三十一日 後半夜 (自后十一時至前五時)

在郷 陸軍大將 福田雅太郎

陸地測量部長 陸軍少將 大村 齊

陸軍大學校長 陸軍中將 荒木貞夫

参謀本部第三部長 同 二宮 治重

参謀本部第三部長 陸軍少將 廣瀨壽助

参謀本部第四部長 同 林 桂

参謀本部謀長 陸軍騎兵大佐 橋本虎之助

参謀本部謀長 陸軍歩兵大佐 藤岡 満藏

同 陸軍歩兵大佐 岡村寧次

参謀本部之員 陸軍砲兵中佐 菊池 門也

同 同 篠塚 義男

陸軍大學馬術營 陸軍騎兵少佐 実 功男

参謀本部之員 陸軍歩兵中佐 山脇 正隆

陸地測量部事務官 同 松岡 鉾 治

✓

號外

久遠宮殿下御通夜希望者ノ件

昭和四年 壹月廿八日

陸軍省調査班

前田副官殿

首題ノ件 龍記ノ通牒ス

龍記

希望日 時 官 氏 名

三十一日正午ヨリ午後六時迄

若クハ二月一日午後六時ヨリ

午後十一時迄ノ内一團

陸軍少將井染祿朗



陸軍

御通夜希望ノ件

昭和十一年壹月廿八日

陸軍省軍務局馬政課

三十日ヲ希望ス

田崎獸医正



陸軍省

30日
31日

去降

有之

陸軍砲兵大尉菰田康明

陸

軍

1313

御通夜希望

中物 川島義之



三十一日正午一午後六時

1314

一月廿八日

久通宮殿下沸通夜奔生者、件

軍務局徵募課

自房前田副官殿

左註

同 少佐

古 攬 卷 茂

健 雄

故久通宮殿下御通夜希望者、件下通牒

昭和四年四月廿八日

陸軍省整備局動員課

前田副官殿

首題、件左記日割中何レモ配當相成度尚回教ハ

一同ニモ二回ニモ差支無之候

左記

中將 松本直亮

三十日午前七時ヨリ正午迄

三十一日正午ヨリ午後六時迄

一日 午後六時ヨリ午後七時迄



教育總監部

敬通元帥宮殿下御通夜人名

一月二十九日正午ヨリ午後六時迄

陸軍中將 三好一

同 坂部十寸徳

陸軍少將 横須賀辰藏

陸軍少佐 角田政之助

陸軍少佐 伊東政喜

陸軍少佐 木村政壽

陸軍少佐 美藤正次

陸軍少佐 武藤章

三

四

1316

前田 確堂

部

一徳藏物喜壽次草

1312

確定上「史」御通
一月二十日
前田利友
おと

吉村
利友

五二號

一月廿八日



御通夜服務ノ件通牒

昭和四年一月廿八日 近衛師團參謀長青木政喜

陸軍省副官松浦淳六郎殿

故邦彦王殿下御通夜割第一回左記ノ通牒

定セラレタルニ付通牒ス

左記

服務日時	所屬	官	氏名
一月二十八日自午後六時至今十一時	近師	砲兵大佐	青木政喜
同	同	軍獸醫正	小林敬一
同	歩一旅	少將子爵	山口十八

官 謹

同 同 同 同 同

近 輔	近 歩 四	近 歩 三	近 歩 二	近 歩 一
--------	-------------	-------------	-------------	-------------

輔 重 中 佐	同	歩 兵 中 佐	歩 兵 大 佐	歩 兵 中 佐
------------------	---	------------------	------------------	------------------

中 根 壺 策	久 米 乙 彦	鷲 津 鉦 平	川 原 侃	上 野 貞 次
------------------	------------------	------------------	-------------	------------------

陸 軍

永岩納

故久邇宮殿下御通儀者此旨仰

昭和十一年五月廿八日

衣糧附

官席前田副官殿

首領、御、衣、紅、通、旨、仰、通、旨、仰

衣、紅

五、十、日、三、平、百、一、中、一、日、

積、水、五、升、五、

陸軍

1322



故久邇宮殿下通夜希望者

昭和四年五月廿八日

陸軍省經理局長計

前田副官殿

一月三十日通夜 陸軍二尋主計 根岸 莞 藤

陸軍



✓ 森岡。或名。 以通叔

以通叔、伴

二月五日午後三時

軍事評 鈴木少佐

御通叔奉仕者 恩賞課

✓ 中村大佐

二月一日午後三時

都立三依り、三古板、二、一

1323

叔父在室の二つ直積の件

陸軍大尉の書名を成るべき記述
この通称に即する節は、
可成り交

筆記

一月廿一日 西午より午後七時迄

陸軍

至急

東京警備八號

故久通堂殿下御通夜奉仕ノ件通牒

昭和四年壹月卅日

東京警備參謀長 宇佐美興屋

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

一月二十九日陸普第三四九號通牒ニ係ル首題ノ件希

望者左記ノ通り通牒ス

左記

一月三十日午後七時—全十時 陸軍騎兵六佐 宇佐美興屋

青十日同半右 陸軍歩兵中佐 小泉恭次

三十一日

1325

陸軍

足立

號外

故久通宮殿下御通夜奉仕ノ件

昭和四年一月卅日

築城部本部長 山内 静

陸軍省副官松浦淳六郎殿

陸普第三四九號ニ依ル首題ノ件左記ノ通希望ニ付可然取計相成度

左記

一月三十日

工兵大佐

矢野正記

二月一日

陸軍中將

山内静夫

三十日
後奉夜



陸軍

可色子致電
氏通夜中印

二月一日

十九日

可色子

山家氏

十九日

可色子

堀口正文

十九日

可色子

岡見松重

十九日

可色子

三本良英

十九日

可色子

三内多花

陸軍

種

故文通宮殿下御通夜奉仕ノ件回答

昭和六年五月廿日

陸軍省副官松浦淳太郎殿

陸軍省副官松浦淳太郎殿

陸軍省第三四九號ノ以テ御通牒ニ係ル旨題ノ
件小官儀御通夜仕度ニ付可然取計ハレ度
追テ奉仕ノ日ハ二月一日ヲ希望ニ付申添テ



陸軍

喜兵衛及二電院

一日三日

御通夜奉仕者

三十日

喜兵衛二宮健市

三十日又三日、二月下

○

中伏酒井周吉

二月下(前夜)

中伏出口永吉

二月下

中伏喜多見安平

二月下

中伏齋藤健述

備考

酒井少佐の故殿下ト御堂你アハニ付熱烈ナ

此等也ナリ

四

四

至急

五五番

故久通官殿下御通夜奉仕ノ件通牒

昭和四年一月廿日

近衛師團參謀長青木政喜

陸軍省副官松浦淳六郎殿

首題ノ件別紙日割ノ通奉仕スルコトニ定メタル
ニ付通牒ス



(永岩納)

陸軍

一月三十日 自午後十一時
至午前五時

第一班

陸軍少將

篠田

次

助

陸軍砲兵大佐

青木

政

喜

陸軍歩兵大佐

川原

侃

平

同 中佐

鷺津

鈿

平

第二班

陸軍少將男爵

淺田

良

逸

陸軍砲兵大佐

時乘

壽

壽

第三班

陸軍工兵大佐	松井	命
同	秋月胤	外

陸軍軍醫監	倉林	香三
陸軍一等差計正	白井八百藏	
陸軍砲兵大佐	西村進	雄
同輜重兵大佐	山田褒	雄

二月二日 自午後七時
至午後十一時

第一班

陸軍中將

長谷川直敏

同少將子爵

山口十八

陸軍一等獸醫正

小林敬一

陸軍歩兵大佐

大瀨石太郎

第二班

陸軍少將

石川連平

陸軍騎兵大佐

原常成

陸軍砲兵大佐
陸軍歩兵大佐

那倉知
平松英雄
滿

教席第一七二號

故久邇元帥宮殿下御通夜奉任人名ノ件通牒

昭和四年一月三十日

教育總監部庶務課長 末松茂治

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

首題ノ件別紙ノ通り選定通牒ス



陸
軍

二月二日
三月五日

故久通元帥宮殿下御通夜奉任人名

教育總監部

陸軍中將 三好 一

同 坂部十才 總

陸軍少將 横須賀辰藏

陸軍大佐 角田政之助

同 末松茂治

陸軍中佐 志岐 豊

同 沼田徳 重

陸軍砲兵中佐 大島 浩

陸軍土兵中佐 安達克巳

陸軍上等兵 美藤正茂

1336

皇國
原簿第三二

故久通宮殿下御通夜奉仕者氏名ノ
件通牒

昭和四年一月三十日 第一師團參謀長大塚堅之助

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

首題ノ件別紙ノ通リニ付通牒ス

故久近宮殿下御通夜奉仕日時割
 六月一日午後十一時より翌朝午前五時迄
 二奉仕者官氏名

本郷聯隊区司令部	麻布聯隊区司令部	歩兵第三聯隊	野砲兵第一聯隊	同	第一師團司令部	歩兵第三旅團司令部
全	歩兵大佐	歩兵大佐	砲兵大佐	軍醫監	主計監	少將
谷 実夫	坪井善明	永田欽山	西郷豊彦	野崎藤三郎	加藤鈴三	古莊幹郎

歩兵第三聯隊	歩兵第二旅団司令部	第一師団司令部	麻布聯隊司令部	歩兵第三聯隊
全	歩兵少佐	砲兵中佐	全	歩兵中佐
北野憲造	小佐治量平	米田國臣	杉山得一	奥保夫

三〇

昭和四年三月四日

故久通宮殿下御通夜奉仕者變更ノ件通牒

昭和四年二月一日 第一師團參謀長大塚堅之助

陸軍省副官 松浦淳六郎殿

昭和四年一月三十一日一師團發第三號通牒ニ依ル旨
題ノ件人名中尤記ノ通り變更相成度通牒ス

尤記

消除	陸軍砲兵中佐	米田國臣
追加	陸軍輜重兵中佐	平櫛平三郎

別紙

故久通宮殿下御通夜奉仕日時割	
月 日	后七。〇。一。后一。〇。〇。后一。〇。〇。前五。〇。〇
一月三十日	陸軍省 近衛師團
同 三十一日	參謀本部
二月一日	陸軍省 第一師團
同 二日	近衛師團 教育總監部

注意

(本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス)

政務次官
参興官
回付
決裁
後
連帶
課名

決行
(決裁)後
同覽
課名

保存期限

受領
番號

老印一七七号

起元廳(課)名

官房

決裁指定

件名

故元帥邦彦王殿下御供物ノ件

決行指定

院

大臣
委

次官

委

政務
次官

参興官

書記官

審案
筆記者

高級
副官



主務副官
官房御用掛
計掛



主務
局長

主務
課長

主務課員

主務局
號番

受領

昭和
年
月
日

連
帶
局長

提出

昭和
年
月
日

局長

大臣官房

昭和
年
月
日

了結

昭和
年
月
日

決行後
行回
(決裁)覽

局長

課長

課長

課長

課長

課長

課長

1343

副官ヨリ朝鮮軍参謀長 第1師團参謀長へ

電報

故 邦彦王殿下へ御供物ノ件ハ當方ニ於テ各方面ト打合せノ上
適宜取計ヲヘキニ付承知セシレ度

主委員

陸 三〇

昭和四年壹月廿九日



陸軍全般ノ分

伏見宮殿下御葬儀ノ際供物

區分	榊 (根付)	盛菓子
陸軍大臣	(甲内内閣ヲ)	十七円
參謀總長	十三円	同
教育總監	同	同
陸軍次官	同	十円
參謀次長	同	十円
教育總監部本部長	同	十円
朝鮮臺灣關東軍官	各十三円	十円
元帥軍事參議官	各十三円	十円
陸軍高等官一員	十三円	五十円

陸軍

福田大將ノ分

陸軍第三七一號

成邦彦王殿下御儀御切子左山ノ許照會

昭和四年壹月廿九日 陸軍省副官松浦淳六郎

陸軍省副官松浦淳六郎殿

成邦彦王殿下御儀御切子トシテ左記ノ各ヲ左山ノ上御儀御ノ指示ヲ
受ケシメラレ候照會ス

左記

陸軍屬 古田 止松

納見

一月三十一日

陸軍



右原主計正



(支那^{納見}七軍司令官ハ師長長^至。按参月トス)

一月三日

副官ヨリ各軍(各師長)参謀長へ、

拜啓時下益々御清通ニ候奉大賀候陳者過般
 久通元帥宮装去被遊誠ニ恐懼ノ至リニ可堪次
 第ニ御産ハ就テハ御供ノ儀ニ付各軍司令官
 (各師團長)閣下區々ニ相成候テモ面白カラサ
 ルエト、存ニ陸軍者ニ於テ
 (軍司令官
 師長)閣下ノ分
 辨臺對(按五糸)
 (按卷示)御供ハ申上置候間御承紙置
 被下度代金ハ御序ノ節大臣官房ニ等主計正右
 原通宛御送付被下度御願申上候

昭和四年 壹月 廿壹日



送 長

進テ陸軍高等官一同トテ本有ヨリ榊及盛菓

ヲ御供ヘ致ス付御承知被下度候

但シ第ニ第ニ師系參謀長ヘ「師長閣下ノ系榊壹對ヘ」ラ

尤如ク作ル

師團長閣下ノ分及御縁故部隊タル步兵第三十八聯隊ノ分

トテ各別ニ榊壹對宛(十三円宛ニ組計二十方円)

步兵第三十八聯隊ニ第ニ師系ノ分トス

支那駐屯軍司令部所中ニ別紙ノ通トス

(補)

副官より参謀本部庶務課長、教育総監部庶務課長、

東軍警備司令部参謀長、本省直轄官衙学校長、侍従

武官、軍用鳩調書委員、陸軍運輸部長宛

拜啓時下益々御清通ノ般奉大賀候隙看過般之通

元帥宛薨去被遊誠ニ誠心懼レ事之不堪次第ニ御養

就テハ陸軍高等官一同御養儀當由輩等固共場

御供入一事ニ本省ニ於テ取計中置御承私被

下度此般御通知申上ル敬具

者内ハ會報ノコト

昭和四年壹月廿五日

陸軍

副官

大井、福田兩大將閣下へ、

謹啓時下至、御情通に般奉大盤候陳者過般久速
元帥公薨去被遊誠之恐懼ノ至リ之不堪次第之御彦ハ
執テ御供ノ儀ニ付御希望ニテ榊壹對(拾五帛)
ヲ豊島岡武場ニ御供ヘノ事ニ取計ヒ置候間御承
知置被下度此般御通知申上ル教具

昭和四年 壹月 廿壹日

陸軍

拜啓時下益々御清適ノ段奉大賀候陳者過般
 久邇元帥宮薨去被遊誠ニ恐懼ノ至リニ不堪次
 第ニ御座候就テハ御供ノ儀ニ付各軍司令及閣下
 區々ニ相成候テモ面白カラサルコト存シ陸軍省
 ニ於テ軍司令官閣下ノ分紳壹對(拾五圓)御
 供へ申上置候間御承知置被下度代金ハ御序
 ノ節大臣官房ニ等主計正石原通宛御送付被
 下度御願申上候

追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ紳及盛
 菓子ヲ御供へ致候ニ付御承知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松浦淳六郎

關東軍參謀長 三宅光治殿

朝鮮、台湾

拜啓時下益々御清適ノ段奉大賀候陳者過般
 久邇元帥宮薨去被遊誠ニ恐懼ノ至リニ不堪次
 第ニ御座候就テハ御供ノ儀ニ付各軍令取閣下
 區々ニ相成候テモ面白カラサルコトト存シ陸軍省
 ニ於テ軍司令取閣下ノ分紳壹對(拾參圓)御
 供へ申上置候間御承知置被下度代金ハ御序
 ノ節大臣官房ニ等主訂正石原通宛御送付被
 下度御願申上候
 追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ紳及盛
 菓子ヲ御供へ致候ニ付御承知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松浦淳六郎

支那駐屯軍参謀長

拜啓時下益之御清適ノ段奉大賀候陳者過般
 久邇元帥宮薨去被遊誠ニ恐懼ノ至リニ不堪次
 第ニ御座候就テハ御供ノ儀ニ付各師團長閣下
 區々ニ相成候テモ面白カラサルコトト存シ陸軍省
 ニ於テ師團長閣下ノ分神壹對(拾參圓)御
 供へ申上置候間御承知置被下度代金ハ御序
 ノ節大臣官房ニ等主計正石原通宛御送付被
 下度御願申上候
 追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ神及盛
 菓子ヲ御供へ致候ニ付御承知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松浦淳六郎

近衛師團參謀長青木政喜殿

以下各師志(第三分十六ヲ除ク)

拜啓時下益々御清適ノ段奉大賀候陳者過般
 久邇元帥宮薨去被遊誠ニ恐懼ノ至リニ不堪次
 第ニ御座候就テハ御供ノ儀ニ付各師團長閣下
 區々ニ相成候テモ面白カラサルコトト存シ陸軍省
 ニ於テ師團長閣下ノ分及御縁故部隊タル歩兵第
 三聯隊ノ分トシテ各別ニ榊壹對宛(十三月宛ニ組
計二十六月)
 御供ハ申上置候間御承知置被下度代金ハ御
 序ノ節大臣官房ニ等主計正石原 通宛御送付
 被下度御願申上候
 追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ榊及盛菓子

ヲ御供へ致候ニ付御承知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松浦淳六郎

第三師團參謀長 谷壽夫殿
(第十六師團參謀長 坪郷芳一殿)

陸軍部隊一覽表 (昭和三年十一月前)

本 省		地 方
大臣官房	陸軍本部	陸軍運輸部
人事局 (二課)	教育總監部	
軍務局 (五課)	東京警備司令部	
整備局 (二課)	近衛師團司令部	
兵隊司 (二課)	第一師團司令部	第二師團
經理局 (四課)		第三師團
醫務局 (二課)		第四師團
法務局	元帥	第五師團
衛生局 (二課)	伯爵奧保業	第六師團
陸軍高等軍法會議	戴仁親王	第七師團
造兵	子爵上原勇作	第八師團
兵器本廠	軍事會議官	第九師團
航空本部	大將 杉 考	第十師團

軍用鳩調査委員	侍從武官府	被服本廠	糧秣本廠	千注製織所	獸醫學校	軍醫學校	經理學部	築城部本部	軍馬補充部本部	憲兵司令部	工科學校	科學研究所	技術本部
李王附武官	春仁王附武官	實陽宮附武官	東久宮附武官	朝香宮附武官	梨本宮附武官	久邇宮附武官	閑院宮附武官	秩父宮附武官	同	同	同	同	同
		支那駐屯軍	關東軍	臺灣軍	朝鮮軍	留守第三師團	留守第三師團	留守第三師團	同	同	同	同	同

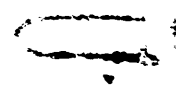
五月廿五日 奉 御清適ノ段奉大賀候陳者過般

拜啓時下益々御清適ノ段奉大賀候陳者過般
久邇元帥宮薨去被遊誠ニ恐懼ノ至リ不堪次
第ニ御座候就テハ御供ノ儀ニ付他ノ師團長閣下
連々ニ相成候テモ面白カラサルニ存シ陸軍省
ニ於テ御供長閣下ノ分神壹對(拾參圓)御
供へ申上置候間御承知置被下度代金ハ御序
ノ節大臣官房ニ等主計正石原 通宛御送付被
下度御願申上候

追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ神及盛
菓子ヲ御供へ致候ニ付御承知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松浦淳六郎



Handwritten signature or mark on the right side of the page.

拜啓時下益々御清邁ノ段奉大資候思者趣叔久遠元御官喪去被遊誠ニ恐懼
 ノ至リニ不堪次第ニ御歴候就テハ御供ノ候ニ付他ノ振合モ有之陸軍省ニ
 於テ司令官閣下ノ分補壹封（拾參圓）御供へ甲上直候間御承知直被下度
 代金ハ御序ノ即大臣官房二等主計正石原 通宛御送付被下度御願甲上候
 追テ陸軍高等官一同トシテ本省ヨリ樽及盛菓子ヲ御供へ致候ニ付御承
 知被下度候

昭和四年一月三十一日

陸軍省副官 松 浦 淳六郎

支那駐屯軍參謀長 松本健児殿








1365

十年

保存期限

決裁指定

決行指定

房官臣大		課局務主		大臣 	受領番 號領	件名 故那彦王殿下御喪儀三開ル件
了結	領受	出提	領受			
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	局長 主務	次官 政務	臺第177號
(裁決)行決 覽回後		帶連		局長 	次官 	
長局		長局		課長 主務	高級 副官	參與官 
長課		長課		主務課員 	主務副官 官房御用掛 	
					審案 筆記者	

政務次官 回付 決裁(前連帶)

決行(決裁)後 回覧 課名

卷五

副官より東京警備局長へ通牒業 西通

故邦考王殿下 御喪儀ニ關シ明三日午 前

九時靈車發引 豊島ノ岡ニ於テ斂葬ノ儀

施行セラルルニキニ付テハ勤務ニ支障ナキ在ホ港

軍高等學堂ヲミテ考別方取計ニテ相成度依

命 通牒ス

追テ参員列諸員ノ心得ニ就テ本二日官報所

載官廷録事ニ依リテ承知セラレ度申渡シ

四二二

昭和四年貳月貳日



1367

決行指定

決裁指定

十年

保存期限

大臣	大臣 委		局長	主務局長	事務局長	課局長	局長	大臣 房	事務	局長	課	局長	課	大臣 房	事務	局長	課
		次官		高級 副官		主務 副官		主務 副官		主務 課員		主務 課員		主務 課員		主務 課員	
		參與官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官	
		參與官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官		書記官	
		審案		審案		審案		審案		審案		審案		審案		審案	
		審案		審案		審案		審案		審案		審案		審案		審案	

政務次官 回付 決裁前連帶

決行(決裁)後 回察課名

受領番號 壹千一七七

起元應(課)名

軍事課

件名

故親王殿下葬儀掛助手差出件

事務課第二

大臣房 昭和三十二年一月二十日

決行後(裁決)覽

局長 課

連帶 局長

課長 課

長官

臣
員

副官より軍務局長及副官（照会案）

故邦考王殿下華儀掛助平トシテ左記ノ

者ヲ差出シ、（辨）華儀掛ノ指示ヲ受ケシメ

ラレ度其人會ス

左記

軍務局長ニ

法軍一属

新井探

副官ニ

同

吉田正松

副官より近衛師團參謀長（照会案）

故邦考王殿下華儀掛助平トシテ左記ノ

一階隊より下士一上等兵二及卒三ヲ差出シ上華

昭和四年壹月廿九日

儀掛ノ指示ヲ受ケシマラシメ度具書ス

追テ田光道彦様及中嶋各ニテ接行セシメ

ラシ度尚細部ニ辨シテ直接景儀委員ト

協議相成度申添テ

三七一

昭和四年壹月廿九日



陸 軍

1370



保存期限	決裁指定	決行指定	閱
------	------	------	---

大臣 委		件名	受領番	
局長 主務課長		板部彦王殿下 御下向表儀の件	老一七七 起元廳(課)名 方々	
次官				政務次官
高級副官				參與官
主務副官 官房御用掛 計掛				書記官
主務課員		審案 筆記者		
大臣 委	局長 主務課長	局長	局長	
局長	局長	局長	局長	
局長	局長	局長	局長	

政務次官回付 決裁前後連帶
參與官回付 決裁後課名

決行(決裁)後
回覽課名

長

課

臣 眞

別及之在原宮中序次第一階ノ

在仰時及令抄書及、通條

拜於明言豐島岡に於て行ハセラル

故邦彦王殿下ノ御表儀、尙した記ノ

直爲金御通知申上候

た記

昭和四年 貳月 貳日

(二月言及投書延録子ヲ記載ス)

二月二日 古畑、宮廷録事

○

1372

大正

陸軍

陸軍省

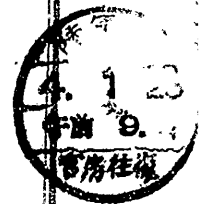
秘

電報譯 一月二七日午前午後三時三十五分發

第二號

高級副官宛 發信者 大沼武官

腸潰瘍ニ腹膜炎ヲ併發御重態ニ陥ラセ



第一七號

電報譯

一月廿

日午前後

七時五九

分發

副官宛 發信者十六師團參謀長

久通宮邦彦王殿下薨去ニ付師團長ハ師團
ヲ代表シ天棧並ニ皇座下久通宮殿下ノ
御棧婦ヲ奉伺セリ

陸軍

陸軍省
4. 1 28
午後 9 時
官房往復

第一六號

電報譯

一月廿七日

午前午後

七時

十五分

分著

副官宛 發信者十二師団參謀長

久遠宮殿下 御重態ノ趣誠ニ畏懼ニ堪

ヘズ師団長ハ一 同ヲ代表シテ御見舞申上

ラレタリ

陸軍

言明の旨あり

第六〇八號

電報譯 二月二日午前午後二時五十分發

副官

宛

發信者

歩兵第三十八聯隊

故久通宮御葬儀、代表トシテ
迎大尉ヲ参列セシム

葬儀委員ノ電致スシ

二月二日午後四時

陸軍



電報譯

一月廿一日

午後四時十分著

立

分發

第七號

陸軍有副官宛

發信者

第八師團參謀長

神御供へノ件 御高配ヲ謝ス

陸軍

(14)

第 號

電報譯

一月三日 午前午後 一時 五七分發

副官宛 發信者 第十二師團參謀長

故久瀨元帥宮御前ニ 紳ヲ供ヘシレシ 厚ク意ヲ

深謝ス

陸軍

閱

1378



第一一號

電報譯

一月廿一日午前後二時一分著

陸軍右副官宛

發信者

第六師團參謀長

故久浦元帥ノ宮御前ニ師團長ヨ
リ神御供ノ御意ヲ深謝ス

陸軍



電報譯

一月三日 午前午後 一時 三十分 五十分 著

第 號

次官宛

發信者 第二十師團參謀長

御手配ヲ謝ス

陸軍

1380



電報譯

一月廿一日

午前午後

七時

分分著

副官

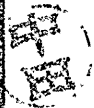
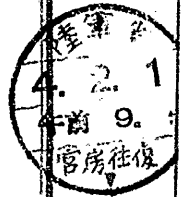
宛

發信者十四師團長

長

神件師手取ッ謝ス

第九號



陸軍



電報譯

二月一日午前午後

〇時一五分
三〇分著

第

號

副

官宛

發信者

關東軍參謀長

元帥宮ノ御供物等ニ關シ御配慮ヲ謝ス

陸軍

二

副官

宛

發信者三郎團長

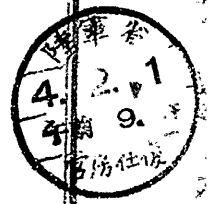
三郎團長

電報譯

一月廿一日 午後

一時六分 著

第一六號



故久通元帥宮法前二帥團長
及謝歩方ヨリ神御供備ハ件法既意

陸軍

拜啓明三日豊島岡ニ於テ行ハセラルル
故邦彦王殿下、御喪儀ニ關シ左記ノ通為念
御通知申上候

左記

二月二日官報、宮廷録事

◎故邦彦王御喪儀當日参列諸員心得

故邦彦王御喪儀當日参列諸員心得左ノ通定メラル

一、葬場啞舎ニ著床スル者左ノ如シ

大勲位以下勲一等以上、故王ノ親族タル華族、宮中席次ヲ有スル

特別縁故者ハ午前九時二十分マテニ葬場ニ先著シ正門前ニ於

テ資格ヲ表示セル名刺ヲ受付係ニ交付シ指定ノ休所ニ参入ノコト

一、前記以外ノ諸員ハ午前十一時ヨリ同十二時マテニ葬場ニ参著シ

正門前ニ於テ資格ヲ表示セル名刺ヲ受付係ニ交付シ拜禮退下ノコト

一、服装

(イ) 男子ハ大禮服、正装、服制ナキ者ハ通常禮服(燕尾服)(左腕ニ
ラ附ス) 神佛各宗派管長及住職ハ之ニ相當スル服装喪章

(ロ) 女子ハ洋服ナルトキハ通常服(ヴェジティングドレス)和服ナル

トキハ桂袴 皇室喪服規程女子
喪服第三期、喪服

一、雨天ノ節ハ雨具ヲ使用スルモ差支ナシ

一、車馬ノ向ハ正門外ニ於テ下車シ車馬券ヲ受クルコト

注意

刀ニハ喪章ノ附着ヲ要セサル儀ニ付為念

昭和四年二月二日

陸軍省副官 松浦淳六郎

閣下

陸軍關係宮中席次第一階人名

宮中席次第一階
所
電話番號

親任官

牛込區拂方町二六
府下大井町鹿島谷三九八二
麹所區永田町一十一官舎
牛込區揚場町一七
赤坂區表町四一
府下代々木初台六六
府下遊橋柏木一六〇
四谷内藤一
府下高井戸所松庵九二
府下中野所東中野一六八
府下下落合二〇七三
府下中野町小滝一五二〇
府下~~中野町小滝~~一五二〇
府下~~中野町小滝~~一五二〇
府下~~中野町小滝~~一五二〇
府下~~中野町小滝~~一五二〇
府下~~中野町小滝~~一五二〇

牛込七六〇
高輪三三四
銀座四二六
牛込三三
青山五九三
四谷二三五四
四谷二三八
四谷四三六三
荻二二二
四谷二二二
牛込三三四
四谷一六九五
牛込三三四

摘要

官職爵氏名

元帥陸軍大將 伯奧 保肇
元帥陸軍大將 子上原勇作
陸軍大將 白川義則
陸軍大將 石黒忠惠
陸軍大將 村上雄次郎
陸軍大將 鈴木莊六
侍從武官長 奈良武次
陸軍大將 宇垣一成
軍事參議官 菅野尚一
陸軍大將 森岡守成
陸軍大將 武藤信義
陸軍大將 井上幾太郎
陸軍大將 大島久
陸軍大將 鮫島重雄

牛込區市ヶ谷加賀町三ノ六	府下遊倉町北谷四七	府下千駄ヶ谷町原宿一七〇	府下北多摩郡平蔵村金鳥山五五	松山市 歩行所	青山北町一ノ八	府下玉川村上野毛二六	府下和田堀所和泉七四	府下代々木三〇〇	府下淡橋町柏木四一二	府下下蒸合丸山四六番地ノ三〇	府下和田堀町堀之内字原四三	赤坂區青山北町四ノ六五	四谷區大番町三四	府下代々木山谷一七四	府下北品川一本木三三九	府下中野町小滝一五二一
牛込 六二〇	青山 四〇一	青山 七〇二	玉川 二七	中野 五七六	四谷 三五七八	中野 二四四	青山 六七五	四谷 九二七	四谷 四五	高輪 五三二七	四谷 三四〇					

陸軍 大将	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
男 柴 東 貞 美	山 内 兵 衛	男 内 山 小 二郎	大 道 尚 道	秋 山 好 吉	本 郷 房 六 郎	此 木 五 郎	男 天 井 成 元	男 五 花 小 一郎	鈴 木 孝 雄	大 庭 二 郎	河 合 操	男 田 中 義 一	山 梨 半 造	福 田 雅 太郎	町 田 經 宇	尾 野 實 信

佳 所 京都府船井郡園部町宮山七

勲等旭日桐花大綬章

静岡縣岩淵町

府下中瀬谷五二五

府下中瀬谷堀内四〇

府下渡橋所柏木三六五

府下大久保町西大久保一四八

(親任待馬公爵) 末頁二掲載ス

勲等旭日大綬章

長崎縣長崎市中山町三〇

府下中野町字上ノ原九三一

山縣縣玖珂郡岩國町字川西二五六

電話番號

摘要

同 官

職

爵

氏

名

同

田中弘太郎

~~李載~~

陸軍少將

侯 李載 覺

同

伯 田中光顯

陸軍砲兵大尉

侯 山階芳麿

陸軍歩兵中尉

侯 久邇邦久

陸軍中將

大島健一

同

曾我祐準

陸軍中將

男 西嶋助義

同

男 米越安綱

同

男 沖原光孚

二

府下大久保南貞所 二五	四谷四四五
府下千駄之谷町尾宿 二九三	青山七五四
府下西大久保四四一	四谷一五九六
岐阜縣稲葉郡加納町	
福岡市西新町三三	
府下益谷所櫛々五四ノ四号	青山八六四
代々木西原九五一	
福岡縣筑紫郡春日村字春日一三〇九	
府下杉並所阿佐谷三五〇一	
小石川区小日向台所一三一	小石川二九八
府下千駄ヶ谷町八九〇	四谷七六
牛込區東五軒所五	牛込 四二六六
府下和国堀町奈和泉字羽根本三五八	
牛込区奈丁町一三六	四谷三一〇五
府下高田所雜司谷九四八	牛込三一九五
府下麩谷所柴通二四	
新潟縣北魚沼郡小千谷町一四二番戸	

同	陸軍中將	男山内長人
同	陸軍中將	男山根武虎
同	陸軍中將	南部辰丙
同	陸軍中將	仙波太郎
同	陸軍中將	西川虎次郎
同	陸軍中將	高山公通
同	陸軍中將	中島正武
同	陸軍中將	白水茨
同	陸軍中將	志岐守治
同	陸軍中將	志水小一郎
陸軍中將	陸軍中將	鶴田棟太郎
陸軍中將	陸軍中將	菅田太郎
陸軍中將	陸軍中將	筑紫熊七
陸軍中將	陸軍中將	田中政明
陸軍中將	陸軍中將	渡邊祐太郎
陸軍中將	陸軍中將	稲垣三郎
陸軍中將	陸軍中將	星野庄三郎

住 牛込區中里二。
京都府紀伊郡深草町李龜谷公家八島一六

所 電話番號
牛込三九二七

摘要

官職 陸軍中將
氏名 武内 徹
子 高島友武

勲一等瑞寶章

府下大久保百人町三。
四谷區大番町八一
府下千駄ヶ谷町原宿一七〇。青山三九八
府下落合前谷戸一七三四ノ二号
神奈川縣鎌倉町無音橋上
門司市大字大里
四谷區左門町三〇
府下駒澤町上馬七五
府下世田ヶ谷町下北澤二二
府下世田ヶ谷町下北澤大山谷八
府下千駄ヶ谷町原宿二〇八

四谷四四八九

同 同 同 同 同 同 同 同 同

陸軍醫總監
陸軍中將

藤田嗣章
藤井茂太
長岡外史
皇野金吾
萩野末吉
内野辰次郎
松浦善助
若光真臣
山田陸樵
松浦寛成
小野寺稟郎

三

府下大久保百人町中通児
 三重縣津市中新所四九
 姫路市五軒邸五八
 芝區高輪御料地官舎外
 四谷區三光町一九
 府下野方所新井五四四
 同 二六一

四谷一〇八

陸軍中將
 同
 同
 陸軍中將
 同
 同

南部麒次郎
 柚原完藏
 福原佳哉
 田内三吉
 井上一次
 引田乾作
 竹上常三郎

公爵
府下千駄谷穩田九

青山一三五

陸軍歩兵少佐

公大山 柏

第三師團長
第九師團長
第二師團長
第八師團長
第十師團長
第十師團長

上原平太郎
永井 来
赤井春海
真崎甚壽
本庄 繁
金山久松